

「3月以降の麦類の雑草防除について」

松本農業改良普及センター

麦圃場でスズメノテッポウなどが残草し繁茂すると、雑草により肥料が吸われ、追肥の効果が低減し、麦の生育が劣って減収する場合があります。また収穫作業に支障となる場合もあります。

圃場の残草状況を確認して、雑草が多い場合は、麦の生育期処理（茎葉処理）に登録のある除草剤による防除をお願いします。

麦生育期に処理が可能な除草剤は下表のとおりです。除草剤の処理時期や使用方法については、防除基準やラベルの表示を確認の上、使用をお願いします。

表 麦生育期の除草剤と対象草種 (登録内容は H30. 2. 14 JPP ネット調)

除草剤名	対象草種	使用時期	使用量(10a当)	希釈量(10a当)	使用回数
エコパートフロアブル	一年生広葉(2~4葉期) ヤエムグラ(2~6節期)	麦の節間伸長開始期まで(但し収穫45日前まで)	50~100ml	100リットル	2回以内
ハーモニー75DF水和剤	一年生広葉 スズメノテッポウ(5葉まで)	播種後~節間伸長前まで(但しスズメノテッポウ5葉期まで)	5~10g	100リットル	1回(注)
バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	生育期(雑草の3~6葉期、但し収穫90日前まで)	100~200ml	70~100リットル	1回
MCPソーダ塩	一年生及び多年生広葉	(秋播麦)幼穂形成期(但し収穫45日前まで)	200~300g	70~100リットル	1回

注) 播種後にハーモニー細粒剤Fを使用している場合は、ハーモニー75DF水和剤は使用できない

留意事項

- ナズナ等一般的な広葉雑草はいずれの除草剤も効果があるが、雑草が大きくなる前に使用する。
- ヤエムグラが残草した場合、葉令が小さい場合はいずれの除草剤も効果があるが、発生が目立つ圃場やヤエムグラの生育が進んでいる圃場では、エコパートフロアブルを使用する。
- スズメノテッポウ、ナガミヒナゲシが残草した場合は、ハーモニー75DF水和剤を使用する。
- クジラグサ、ヒメアマナズナ、グンバイナズナの多い圃場は、ロゼット径3cm(500円玉位の大きさ)までに、ハーモニー75DF水和剤を使用する。
- 播種後にハーモニー細粒剤Fを使用している場合は、ハーモニー75DF水和剤は使用できないので注意する(含有成分の使用回数の制限)。
- ヤグルマギクの発生圃場は、ロゼット径5cmまでに、バサグラン液剤を使用する。
- カラスノエンドウの発生圃場は、1~4葉期までにMCPソーダ塩を使用する。
- 生育処理剤(茎葉処理剤)は少量でも、他の作物に対する活性が高いため、ドリフトには十分注意し、使用後の機械、ホース、タンク等は十分洗浄する。
(特にハーモニー75DF水和剤は少量でも非常に高活性なので注意する)
- ネズミムギ(イタリアンライグラス)、ヤグルマギク、クジラグサ・ヒメアマナズナ等の帰化アブラナ科雑草の発生している圃場が見られる。
これらの雑草は、麦畑に侵入し、一端広がってしまうと防除が困難なので、圃場で見つけ次第、除去する(きれいだからといって畦畔に残さない)。